十和田地区豆まきパレード

地域に感謝の意を込めて

十和田地区後厄被実行委員会主催の「豆まきパレード」が2月5日～6日、十和田地区で行われました。

「育んでくれた町」に感謝の意を込め、豆まきをして地域を巡るもので、今年で37回目になります。

かみしもを着た男性や鬼役の男性、袴（はかま）姿の女性約50人が5班に分かれて、毛馬内、大湯、錦木地区を巡り、「鬼は外、福は内。天に花咲け、地に実りあれ。家内安全、商売繁盛」と声を上げて豆をまき、厄を払いました。また、「どんど焼き」も行い、無病息災を祈りました。

6日は地域の保育園などをまわりました。園児たちは鬼の登場に少したじろぎながらも、元気いっぱいに豆をまいていました。

↑ 1 大湯保育園では、みんなで一緒に鬼を追い払いました。2 後厄の女性たちは華やかな袴姿で参加しました。3 どんど焼き会場では餅つきが行われ、親子で楽しむ姿が見られました。

産業活力塾 公開講座

住む理由を堂々と語れるように

2月5日、市が若手経営者や起業家向けに開講した「産業活力塾」の公開講座として、地域活性化や人口減少について多くの著書を手掛ける藻谷浩介（もたに）氏の講演会が花輪市民センター講堂（コモッセ内）で行われました。

藻谷氏は地域活性化を人口が減らなくなること、若者が戻ってきて子どもが生まれ続けることとし、住む人が誇りを持ってここに住む理由を語れることが大事と述べ、その第一歩として地元産品を購入して消費する「地消地産」を促しました。

参加者は藻谷氏の軽妙な語り口に引き込まれながら、真剣な表情でこれからの鹿角について考えていました。

↑ 藻谷氏はユーモアを交えて講演を行いました。

冬期防災訓練

冬期間の災害に備えて

2月5日、県と本市が主催する平成28年度県・市冬期防災訓練が、八幡平谷内地区で行われ、地域住民や消防署員など約350人が参加しました。

冬期の大規模防災訓練は本市では初めてで、谷内地区市民センターグラウンドでは倒壊家屋や雪の中からの人命救助や、除雪車やスノーモービルを使った救助活動など、さまざまな状況を想定して行われました。

また、地域住民は谷内地区市民センター内への避難訓練の後、県の自主防災アドバイザーの講演を聴講しました。雪が伴う災害は被害が大きくなってしまうことを聞き、防災の意識を高めるとともに、地域のつながりの大切さを再確認していました。

↑ 消防団員たちは、家屋からの落雪に巻き込まれた人を救助する訓練を迅速に行いました。

↑ 会場は選手たちが雪に足を取られたり、転んだりする姿に大いに沸き、笑い声と声援が送られていました。

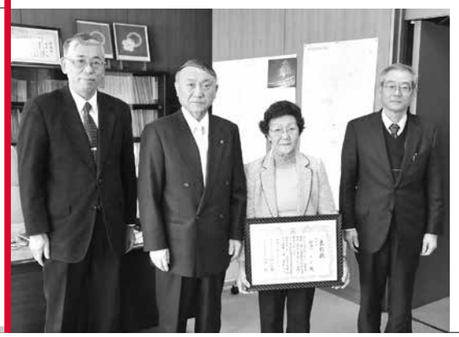
金田一ノリさん「緑十字銀章」優良運転者表彰受賞

地域の交通安全に大きく貢献

金田一ノリさん（十和田大湯）が交通栄誉章「緑十字銀章」優良運転者表彰を受賞し、2月2日、児玉市長に報告を行いました。

金田一さんは、37年間無事故無違反であり、他の運転者の模範として安全運転の推進に努められています。また、鹿角交通協会発足当時から交通安全活動に積極的に参加し、「手作り交通安全パレード」、「交通安全かかしコンクール」など、地域の先頭に立って尽力してきました。

児玉市長は「おめでとうございます。また長年ご尽力いただき、ありがとうございます」と祝福しました。



↑ 児玉市長に報告をする金田一さん（写真右から2人目）。

雪上バレーボール大会

雪上の熱戦で地域に笑顔

2月12日、鹿角アメニティパーク倶楽部ハウスグラウンドで、雪上バレーボール大会が開催されました。

世代を超えて雪に親しむイベントとして、花輪地域づくり協議会が10年前から主催し、今年は計16チームの参加となりました。

選手たちは雪に足を取られながらも懸命にボールを追いかけるなど元気なプレーを見せ、会場は歓声と笑顔にあふれていました。